

■玉椿象谷 漆工(漆芸家)。超人的テクニックを発揮し、繊細華麗な讃岐漆器様式を考案。

たまかじぞうこく

いざな7報復・ 1806＝

讃岐国高松城外下磨屋町で、_鞘塗師で漆商の藤川家に養子入りし篆刻・細字の名手となった理右衛門の子に生まれる。本名藤川為造。

_幼時から父に鞘塗を習い、

・ ・ ・ ・ ・ 1815＝ 9歳：

水野忠成老中1818＝12歳：

_家業に従事するうち、超人的テクニックと天才的ひらめきを発揮するようになり、

シホ*ル鳴滝塾1824＝18歳：

_京都東本願寺に行き、雲華のもとで修行するとともに、雲華の幹旋で、多くの神社仏閣が所有する古今の最高級美術品に接し、大坂や加賀にも足を伸ばし、さらに、一流の文人・墨客・工人らと親交して、鑑賞眼と制作技法を身につけるうち、

富籤流行・ 1830＝24歳：*初めて藩主松平頼恕からの用命を受けて、「御用留」をつけ始め、まず菓子盆と食箸を献納。

富嶽三十六景1831＝25歳：_続いて、軸盆と箆の用命を受け、

鼠小僧磔・ 1832＝26歳：_さらに、堆朱二重印箱を献上して感動され、丸の中に讃岐と書いた印を下賜され、以後、作品箱に押印するよう命じられる。

天保大飢饉始1833＝27歳：

滑稽+人情本 1835＝29歳：*藩の用命が多くなり、帯刀を許され、郷土格となる。以後、お抱え職人として、天分を発揮して行く。

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝30歳：_藩考信閣と宝蔵のお手入れ御用を命じられて、藩所有の一流品に深く触れる機会を得、次々制作して献納

、

大塩平八郎乱1837＝31歳：

適塾ホヱン・ 1838＝32歳：お手入れ御用、_功績を認められて、お目見えとなり、玉椿姓を賜る。

蛭社の獄・ 1839＝33歳：お手入れ御用、_超人的な細密さと華麗さを持った“一角印籠”を制作し献上。

勅進帳初演・ 1840＝34歳：_お手入れ御用を重ねながら、独自の?法を創案して行き、

天保改革弾圧1842＝36歳：

阿部正弘首座1845＝39歳：

孝明天皇・ 1846＝40歳：お手入れ御用、

尊徳報徳論・ 1851＝45歳：_10代藩主頼胤の命で、「堆黒狹貫彫の“忘貝香合”」を制作。

万次郎帰国・ 1852＝46歳：お手入れ御用、_続いて、「堆朱二重彫の“鼓箱”」を制作し、お伽並・三人扶持となり、楽只圖の号を賜る。

ペリー来航・ 1853＝47歳：父理右衛門の苗字帯刀も許される。

開国開港・ 1854＝48歳：*最高傑作となった「彩色蒔書の“料紙・硯箱”」を制作。

_その後も、さまざまな注文に応じて、家宝となるような作品を次々と制作するが、

安政の大獄・ 1859＝53歳：*藩主からの用命は絶えて、「御用留」記載が終わる。

桜田門外変・ 1860＝54歳：

_没年不明。